

## <金標準、依然と金利高と円安の動きで戻り売り基調・・・>



(出所：オアシス)

米国財務省が行った3年債、10年債の入札は順調に消費したが、30年債は低調であった事から金利は高止まりを見せ、週末の時点でも10年債金利は4.158%まで上昇を見せている。また金ETFのSPDRゴールドシェアの残高が先週に2.6トン減で903トンとなり、3月10日以来の低さとなるなど3週間連続で減少傾向を見せている。しかし中国人民銀行は金準備高を7月も増加させ9ヵ月連続で買い増しを行うなど、人民元安の動きもあり注意が必要である。ただ金標準先物は、NY金が2000ドルを付けた以降は金利高・ドル高を受けて週末には1942.7ドルまで下値を追っているが、円安の恩恵を受けて金標準先物は8850円以上を維持している。しかし週末に為替市場で円ドルは、144.99円まで円が売られており、2022年に市場介入を行なった水準である145円に近付いているため、今週は介入警戒の円高に振れる可能性もあり、8900円以上は戻り売り傾向が強まると思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが切り下げ、シグナルも切り下げているが、乖離幅が縮小している。RCIは短期が下げ渋り、長期は切り下げるなど目先高値が止まる可能性を秘めていると思える。特に日足が40日移動平均線で抵抗を見せており、そのため8852円を下回る場面では8800円を試すリスクが増加すると思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,235,000 円(2023 年 8 月 14 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 8 月 14 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>